

【音楽科】教科提案

「つなぐ」ことでせまる音楽の魅力 ～思いや意図をもって表現できる子どもに～

1. 研究テーマ設定の理由

音楽科ではこれまで2ヶ年にわたって「つなぐ」をキーワードに、教材（楽曲）・仲間・自己の3つの対象とのつながりを柱として、思考・判断する過程を大切に協働的な学びの実践・実証を重ねてきた。一昨年度は「教材とつなぐ」、昨年度は「仲間とつなぐ」を重点に置いて研究を進めた。その結果、主体的に仲間とより良い表現を求めていく子どもの姿が見られようになってきた。一方で、「思いや意図が音楽を形づくっている要素とつながっていない」「思いや意図はあるが、表現するための技能がない」という課題があった。

本年度は、昨年度に引き続き、「つなぐ」をキーワードとして、特に、「自己とつなぐ」に重点を置く。既習の知識や技能を表現や鑑賞に生かしたり、さらに、思いや意図に合った表現をするために、知識や技能を自ら得ようとしたりすることができる子どもの姿をめざす。

2. 研究仮説

音楽を聴いて感じたこと、気付いたことなどを言葉（音・言語・身体表現など）で伝え合う活動を積み重ねることや、授業の終わりに振り返りを行い、自分にどんな力が身に付いているかを自己認識させることで、「自己とつなぐ」子どもの姿が見られるであろう。

3. 音楽科における「問い続け、学び続ける子どもたち」

音楽科では、「問い続け、学び続ける子どもたち」を次のように定義した。

仲間と関わり合いながら表現する楽しさを見出し続けようとする子どもたち

音楽科の学びを通して、将来、自分なりの方法で音楽を楽しみながら生活を豊かにする人になってもらいたい。仲間と関わり合って学びを進めることで、音楽の面白さやよさ、美しさを感じて、学んだことを生かしながら表現する楽しさを見出し続ける子どもの姿をめざす。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none">・仲間の演奏や思いに触れ、その演奏の楽しさを感じ取ることができる・思いをもって表現する楽しさを味わうことができる	<ul style="list-style-type: none">・多様な演奏や自分と仲間の演奏を聴き比べ、音楽を形づくっている要素に気付いて学ぶことができる・既習の知識や技能を生かしながら、思いや意図をもって表現することができる	<ul style="list-style-type: none">・多様な演奏や仲間の演奏に進んで関わり、他者の考えと自分の考えを融合させながら、音楽を形づくっている要素を理解することができる・既習の知識や技能を生かしたり、さらに得たりしながら、思いや意図をもって表現することができる

4. 音楽科で身に付けさせたい資質・能力及び態度ともの見方・考え方

めざす力	つなぐ力	実感する力
自分や他者の音・表現を大切に、問題解決に向けて主体的・協働的に取り組もうとする態度	対象・他者・自己との対話を繰り返しながら、試行錯誤したり、工夫したりして表現・鑑賞する力	学んだことや身に付けた基礎・基本の力を生かしたり、さらに知識・技能を得たりしながら、表現・鑑賞する力

〈もの見方・考え方〉

音楽を聴いて感じ取ったことから音楽を形づくっている要素に着目し、自己のイメージや感情、生活などに関連付けて考える。

5. 研究内容

- (1) 言葉（言語・音・身体表現など）で表現する活動を取り入れた授業づくり
- (2) 振り返りの充実（振り返りシートの活用）

6. 研究評価

5. 研究内容に基づいて取り組んだ授業実践の中での子どもの言葉や表現する音そのものをもとに、研究仮説の検証を行う。鑑賞での学びや表現に至る過程が現れるワークシート、振り返りシート等も評価の材料とする。